

定例調査 ひめしん景況レポートNo.182 (2021年3月期調査)

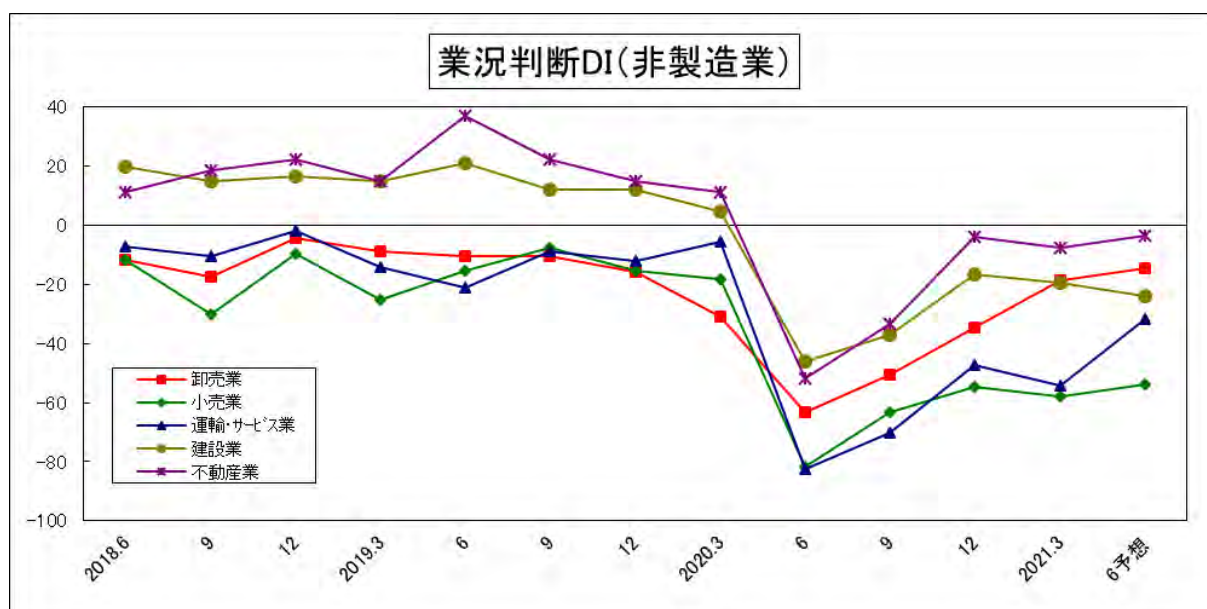
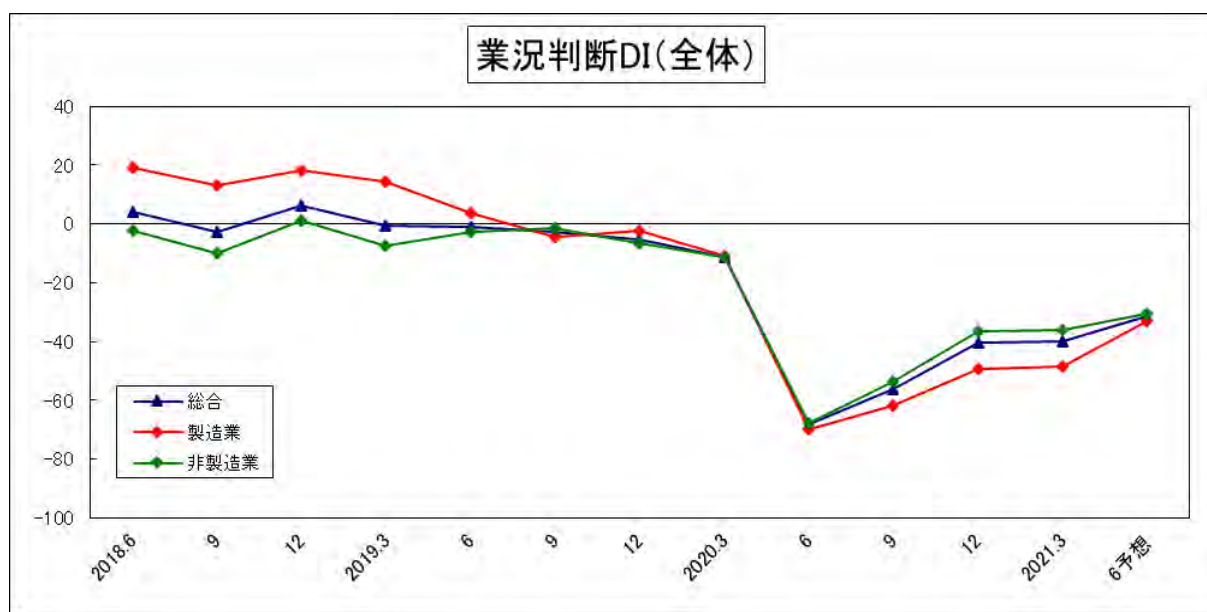
約450社のお客さまを対象に「中小企業景気動向調査」を四半期に1回実施している。その結果を取りまとめましたのでご覧ください。

- 調査時点・内容 2021年3月上旬・2021年1-3月期実績、2021年4-6月期見通し
- 調査対象 当金庫の取引先 450社 (有効回答数449社：有効回答率 99.8%)
- 業種別内訳 製造業(136社)、卸売業(69社)、小売業(93社)、運輸・サービス業(57社)、建設業(67社)、不動産業(27社)
- 分析方法 DIによる分析方法を採用 DI = 「増加(良い)」の割合 - 「減少(悪い)」の割合

<2021年1-3月期の概況>

■業況判断DIの推移

業種	調査時期	3期前	前々期	前期	今期	来期(予想)
		2020/4-6期	2020/7-9期	2020/10-12期	2021/1-3期	2021/4-6期
総合	(449社)	-68 (↓)	-56 (↑)	-40 (↑)	-40 (→)	-31 (↑)
製造業	(136社)	-70 (↓)	-62 (↑)	-49 (↑)	-49 (→)	-33 (↑)
非製造業	(313社)	-68 (↓)	-54 (↑)	-37 (↑)	-36 (↑)	-30 (↑)
卸売業	(69社)	-63 (↓)	-51 (↑)	-35 (↑)	-19 (↑)	-14 (↑)
小売業	(93社)	-82 (↓)	-63 (↑)	-55 (↑)	-58 (↓)	-54 (↑)
運輸・サービス業	(57社)	-82 (↓)	-70 (↑)	-47 (↑)	-54 (↓)	-32 (↑)
建設業	(67社)	-46 (↓)	-37 (↑)	-16 (↑)	-19 (↓)	-24 (↓)
不動産業	(27社)	-52 (↓)	-33 (↑)	-4 (↑)	-7 (↓)	-4 (↑)



●総合（449社） 播磨地方の景況感は横這い

- （今期実績） 今期（2021年1-3月期）の全業種総合の業況判断D Iは、前期（2020年10-12月期）から横這いの▲40となった。
- （業種別） 製造業は前期比から横這いの▲49、非製造業は前期比1ポイント改善の▲36となり3四半期連続で改善した。
- （来期予想） 来期（2021年4-6月期）の予想業況判断D Iは、全業種総合で9ポイント改善の▲31、製造業で16ポイント改善の▲33、非製造業で6ポイント改善の▲30となる見通し。

○製造業（136社） 前期と横這い

- （今期実績） ▲49（前期比±0pt） （来期予想） ▲33（今期比+16pt）
- （業種別） 21業種中、金属製品、一般機械器具など7業種で改善、食料品、皮革製品など9業種で悪化。
- （コメント） 既存顧客からの需要が低下。販路開拓が重要で展示会や営業活動に精力的に活動しているが、コロナ禍で交渉の制限などこれまでとは異なる営業スタイルに苦戦。（食料品）
M&Aも視野に入れて新規事業に参入したい。本業では事業拡大は見込めず、核となる新たな事業を模索中。（一般機械器具）

○卸売業（69社） 3四半期連続の改善

- （今期実績） ▲19（前期比+16pt） （来期予想） ▲14（今期比+5pt）
- （業種別） 9業種中、機械器具、建築材料など6業種で改善、農畜産物・水産物、化学製品で悪化。
- （コメント） コロナ禍で新たなソフトウェアを導入し、経費削減に注力中。社内IT化を推進。（飲食料品）
一般廃棄物もコロナの影響を受けて減少傾向。中国への輸出規制も厳しく売上減少。単価も依然低く、厳しい状況。（再生資源）

○小売業（93社） 3四半期ぶりの悪化

- （今期実績） ▲58（前期比-3pt） （来期予想） ▲54（今期比+4pt）
- （業種別） 12業種中、衣服身回品、ガソリンなど4業種で改善、飲食料品、飲食店など6業種で悪化。
- （コメント） 外出自粛の影響大きく売上減少。売上回復を図るための新たな試みをしたいが、資金に余裕がなく抜本的な改善策がない。（飲食店）
IT活用を行うための人材がおらず、積極的なITへの設備投資を躊躇している。（自動車）

○運輸・サービス業（57社） 3四半期ぶりの悪化

- （今期実績） ▲54（前期比-7pt） （来期予想） ▲32（今期比+22pt）
- （業種別） 7業種中、物品賃貸で改善、運輸業、クリーニング・理容・美容など3業種で悪化。
- （コメント） 病院関係の取引先が多く対応は難しいが、需要は高まっている。（クリーニング・理容・美容）
コロナの影響で受注減少している。人材不足が一番の問題であり、若い人材の確保をしたい。
（その他一警備業）

○建設業（67社） 3四半期ぶりの悪化

- （今期実績） ▲19（前期比-3pt） （来期予想） ▲24（今期比-5pt）
- （業種別） 3業種中、設備工事で改善、総合工事、職別工事で悪化。
- （コメント） 受注先とのやり取りがリモート中心になりつつある。便利な一方、直接対面でやりとりする方が交渉が円滑に進むと感じる。（総合工事）
コロナの影響で工事遅延のしわ寄せがきて年度末のスケジュールはひっ迫していたが、現在も流れは順調。慢性的な人材不足の業界で人材確保に苦慮している。（職別工事）

○不動産業（27社） 3四半期ぶりの悪化

- （今期実績） ▲7（前期比-3pt） （来期予想） ▲4（今期比+3pt）
- （業種別） 4業種中、不動産代理・仲介で改善、建売・土地売買で悪化。
- （コメント） コロナ禍による営業活動、広告の自粛、イベントの中止等で受注減少。和室の海外販売に注力したい。（建売・土地売買）
今後、可能な範囲でデジタル管理を進める考えである。（不動産代理・仲介）